

## わたしの周りは

超高齢社会

などで遺品整理に携われな  
いケースが多い。親戚付き  
合いも薄まり、かつてのよ

うな形見分けも少ない。周  
りとの交流もなく、孤独死  
するお年寄りもいる。

そんな事情を背景に、家  
族に代わって遺品を片付け  
る遺品整理業の需要が増し  
ている。「家に物が多くて  
どうしようもない、何から  
手をつけたらいいのか分か  
らない、という人が多い」

と遺品整理業者「アクアブ  
ルー」（札幌）の二口英樹  
社長は話す。

生前から自らの遺品整理  
を考える人もいる。昨年7  
月に発足した遺品整理業者  
や司法書士らでつくるボラ  
ンティア団体「エンディン  
グ総合支援サポートの会」  
（札幌）にはそんな人たち

内には100社はある」と  
も言われる。

遺品整理士認定協会（千  
歳市）は、通信講座で遺品  
整理の手順や関係する法  
律、遺族へのマナーなどを  
学び、試験に合格した人に  
民間資格の「遺品整理士」  
を認定している。2011  
年11月の開始以来、現在ま

でに全国5500人あまり  
が資格を取得。すべての人  
が開業するわけではない  
が、遺品整理への関心の高  
さを物語る。

ただ、こうした資格が生  
まれた背景には急拡大した  
業界の抱える課題がある。

## 核家族化で需要高まる

から相談が寄せられる。

「高齢者は家族に迷惑  
をかけたくないとの思いが  
強い」と同会の池田智裕会  
長。余命宣告を受け、生き  
ているうちに整理を進めた  
人や、あらかじめ見積も  
りを取って整理の費用を用  
意しておく人もいるとい  
う。

自分の思いを記したノ  
ートや、家族宛ての手紙、本  
のページの間に挟まれたメ  
モ、家族の写真…。「遺品  
整理からはその人の思いや  
人生がのぞく」と携わる人  
々は口をそろえる。遺品を  
通して故人の心が遺族に伝

わってゆく。

札幌市で一人暮らしして  
いた母を亡くした北見市の  
女性は、週末に札幌へ通っ  
て遺品を片付けてきたが、  
仕事や遠距離移動の負担が  
大きく、業者に遺品整理を  
依頼。作業を終えた業者か  
ら、整理で見つかったメモ  
を渡された。

会社に出かけたこと、友  
人との付き合いメモから  
は、離れてはは分らない  
かった日常が浮かんでき  
た。住み慣れた札幌での暮  
らしを望んだ母。「1人で  
も楽しく過ごしていたこと  
が分かってほっとした」と  
振り返る女性は、遺品整理  
を通して、自分の心の整理  
もついたりと感じている。

（福田淳一、西村章、藤本  
陽介が担当しました）

＝おわり＝

今月半ば、札幌市内のあ  
る住宅で遺品整理が行われ  
た。住んでいたのは70代の  
男性。5月に入院先の病院  
で亡くなった。家具、衣類、  
こまごまとした日用品―専  
門業者が引き出しの一つ一  
つまで確認し、遺族に渡す  
物、引き取る物などをより  
分けて、手際よく整理を進  
めていく。

男性は同居していた母親  
が13年前に亡くなった。以  
来、一人暮らし。作業には  
千葉県に住む兄が立ち会っ  
た。「身内で動けるのは私  
だけ。何度か通って少しず  
つ片付けたが、物が多く、  
とても手に負えなかった」  
と話す。3日間の作業で片  
付けた遺品は2トトラック  
にして6台分に及んだ。

核家族化が進み、夫婦2  
人や1人住まいの高齢者世  
帯が増加。子どもも遠方に  
住んでいたりと、仕事が多忙

## 遺品整理

5



手際よく

遺品整理の現場。作業員が手際よく遺品を仕分けていく

需要の高まりから、便利  
屋やリサイクル業者、軽運  
送業者などさまざまな業種  
が遺品整理に参入してお  
り、現在は「全国で5千社  
は手がけているのでは」「道

この連載への意見や感  
想をお寄せください。住  
所、氏名、年齢、電話番  
号を明記の上、郵便かフ  
ァクス、電子メールで北  
海道新聞生活部へ。宛先  
はこのページの右上にあ  
ります。